



表紙の写真:手取川源流部(白山/石川県)

崩壊地ブック

ダム日和

あまり知られていませんが、日本国内にはある日突然地図を書き換えなくてはならなくなるような大規模な土砂災害がしばしば発生し、それに対処する為の工事が、何十年にも渡って行われている場所があります。

そんな「大規模崩壊地」と「砂防」の現場に出会うための最初の一歩を、いろんな人に踏み出してもらいたくてガイドブックを作ってみました。この、いろいろな意味でスケールの大きな風景を知っていただくきっかけになれたら幸いです。

なお、著者は土木や地質等の教育を受けた訳でも、ましてや仕事をしている訳でもないただの素人です。誤りや不正確、厳密で無い部分等が多々含まれているかと思われますがご容赦ください。また、崩壊地の現場は日々変化しており、実際と本書の内容が異なる場合があります。崩壊地に行かれる際は事前に情報収集を行った上、現地の指示や案内に従い、危険な場所に立ち入ったりする事の無いようお願いします。

1.崩壊地の基礎知識…4 崩壊地ってなに?4 砂防のプレイヤー達5 崩壊地に出かけよう7 2.崩壊地の紹介8 鳶山崩れ8 稗田山崩壊地10	青崩崩壊地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
大谷崩······12	白山31
日光男体山14	大沢崩れ/
足尾・松木渓谷16	猿供養寺地すべり32
白山······18	足尾・松木渓谷/
大沢崩れ20	大西山崩壊地/青崩崩壊地/
猿供養寺地すべり22	帰雲山崩壊地33
大西山崩壊地······23	

1.崩壊地の基礎知識

崩壊地ってなに?

大地が裂け、山が動く

日本各地の山地には、崩壊地とよばれる何らかの原因により一体がごっそり崩れてしまった場所が点在しています。

これらが発生する原因として、主に集中豪雨や地震や火山活動等が挙げられます。 岩手宮城内陸地震によって荒砥沢ダム上流が崩壊した様子をニュースでご覧になった方は多いでしょう。 しかし、なんの前触れもなく突然崩壊した、なんて事も中にはあるようです。





崩れのあとには

山が崩れれば当然その土砂がどこかに溜まります。不安定な土砂が渓流に溜まっていると、大きな被害を起こしかねない土石流を発生させる原因になります。

また、上流から流出する土砂の量が極端 に増えてくるため、下流の川の深さが土砂 で浅くなり河川の氾濫が引き起されやすく なる等の問題が出てきます。

「砂防」と「治山」

そこで、それらの対策として行われるのが、「砂防工事」と呼ばれる主に山間 部で行われる工事です。必要以上の土砂が下流に流れるのを防ぎ、浸食等によっ て不安定な新たな土砂が作られる(土砂が生産されるといいます)事を食い止め る為に、各種土木的な工法を用いて対策をするわけです。

さて、この「砂防」に良く似た言葉で「治山」という言葉があります。実際の現場を見てみるとどちらも似たような事を行っているように見えるのですが、基本的には砂防法という法律に乗っ取って主に国土交通省が行うのが「砂防」、森林法という法律により林野庁(農林水産省)が行うのが「治山」と呼ばれているようです。

砂防のプレイヤー達

砂防ダムだけが砂防じゃない

砂防といえば、山奥に行くと渓流で必ずといっても良いほど見かける「凹」の字の形をした砂防ダムの事をまず連想されるのではないでしょうか。しかし、砂防工事はそれだけではありません。土砂の生産を抑止し流出を抑制する為に、多種多様な手法が用いられます。ここで主な工法を簡単に紹介して行きたいと思います。

山腹工

斜面に生息する植物は土砂の生産 の抑制という意味に置いても大きな 働きを持っています。

しかし、崩壊地は不安定で崩れやすく、植物が育つための土壌が存在しないため、そのままにしておいてもなかなか樹木が生えず、土砂の生産が進行してしまいます。

そこで、地表を安定させて植物が 育ちやすくなる環境を整えることで 土砂の生産を抑えようとする工法が 山腹工です。

山腹の法面を整地したり擁壁を設けたりする事で傾斜を緩和し、安定した土壌を保持しようとする山腹土留工、植物の種子や苗・樹木等を人の手によって植え付ける吹付工や植栽工、土壌の流出を防ぐ為に排水路を整備して降雨等に備える排水工などが主なものとして挙げられます。





溪流工

でも、やっぱり砂防といえば渓流の工 事、となると主役は砂防ダム工ですね。

砂防ダムには主に(1).貯砂機能 (2).河川 勾配を緩やかにする機能 (3).洗掘などに よる土砂牛産を抑止する機能の3つがあ り、その配置する場所や形状によってど のような役割を持たせるかが変わってわ ってきます。

- (1).貯砂機能は、砂防ダムを作る事によ って土砂を溜め込む機能です。
- (2). 河川勾配を緩やかにする機能は、 砂防ダムに土砂が溜まる事で川の勾配が 緩くなり、土砂を下流に流す力を弱める 機能です。
- (3).洗掘などによる土砂牛産を抑止する 機能は、砂防ダムに土砂が溜まる事で川 底の洗掘を防ぎ、土砂の牛産を抑制する ことができる機能です。

最近、よく見られる鋼製のものやスリ ットの入った透過形の砂防ダムは主に貯 砂機能を期待した砂防ダムに用いられ、 主に(2)や(3)の効果を期待した急勾配の渓 流等に階段状に作られる様な砂防ダムで は用いられないようです。

また、下流域で洗掘防止や勾配の緩和 等の目的で作られる比較的落差のの低い 砂防ダムの事を「床固工」と呼ぶそうで す。

その他の主な砂防工法として、流路を ら下流を守っているのです。







確定させて洪水を安全に下流に導く為の「護岸工」や「流路工」などを挙げる事が できます。これらの工法を組み合わせて、砂防工事が土砂が引き起す様々な災害か

崩壊地に出かけよう

崩壊地は現在進行形

崩壊地めぐりをするに当たっての重要なポイントは、大部分が今まさに崩壊地に立ち向かっている現場であるという事です。単純にいえば、工事現場だということ。これは有る面では魅力だといえるのですが、立ち入りが規制されたりするなど見学者にとって制約となる面でもあります。



また、崩壊地は山奥にありますから道路が整

備されているとは限らず、自然保護等の理由によって自動車の入山を規制している場所も多くあります。なので必然的に山道を徒歩で移動する機会が多くなるように思えます。また河原のような石がゴロゴロしたような場所も歩く必要があるため、崩壊地めぐりをする際はトレッキングシューズや登山靴の様なしっかりした靴が必要でしょう。

さらに、崩壊地めぐりに「良い天気」は必須です。荒天時は危険性が高まりますし、無理して行ったところで肝心の崩壊地を拝む事ができません。天気が悪い時はあきらめて、ほかの予定に切り替えましょう。例えばダムめぐりとか。

偉大な先駆者

「――幸田さんは年齢七十二歳、体重五十二キロ、 この点をご配慮――どうかよろしく」

幸田文著『崩れ』より

崩壊地めぐりにおいてこれ抜きに語れないものといえば、幸田文著『崩れ』(講談社文庫)です。

たまたま目にした大谷崩れに衝撃を受け、各地の崩壊地を見て回った様子をしたためた異色の随筆集なのですが、崩壊地の様子が見事に表現されていて、崩壊地や砂防に興味を持たれた方は是非手に取っていただきたい一冊です。



ちなみに、私が崩壊地めぐりを始めたときの貴重な情報源でもありました。 また、孫に当たる青木奈緒さんが祖母の崩壊地めぐりの足跡をたどった随筆 『動くとき、動くもの』(講談社文庫)も必読ですね。

2.崩壊地の紹介

鳶山崩れ

とんびやまくずれ/富山県中新川郡立山町(地図:P.27)



毎年100万人もの観光客で賑わう、立山黒部アルペンルート。そのすぐ隣に、「知られざる、もうひとつの立山」とも称される立山カルデラという巨大な陥没地があり、そして、日本有数の崩壊地「鳶山崩れ」があります。

鳶山崩れは1858年2月25日に発生した飛越地震により発生しました。このときの土砂の崩壊規模は4.1億㎡といわれ、今だに立山カルデラ内に2億㎡の土砂が堆積しているといわれています。

鳶山崩れによる下流常願寺川への影響は非常に大きく、度々氾濫を繰り返すようになり、県による砂防工事が明治時代より行われてきました。しかし、あまりにも大規模で莫大な予算を必要とするため、大正15年一都道府県内に収まる河川で行われる砂防事業としては初めて、国の直轄事業として行われるようになりました。



崩壊した鳶山の直下にあたる、多枝原 平です。土石流を防止するための多く の砂防堰堤が作られています。 幸田文が背負われて鳶山を見たのはこ の辺りなのだとか。(地図A)



1973年まで立山カルデラ内で開かれ ていた立山温泉の跡です。湯船などの 遺構が残されています。(地図B)



鳶山崩壊地の崩壊土砂は鳶泥と呼ば れ、立山カルデラ内に堆積し赤茶けた 地肌をさらけ出しています。土砂流出 れています



立山カルデラの出口にあたる場所に作 られた、白岩砂防堰堤です。63mの ダムの高さは日本一。2009年、砂防 を食い止めるため、緑化工などが行わ 施設としては初めて重要文化財に指定 されました。(地図C)

立山カルデラ内は関係者以外立入禁止の為、見学の際は「立山カルデラ砂防博物館」が企 画する見学会を利用する事になります。砂防工事専用トロッコに乗車するコース以外について は基本的には先着順の受付の模様です。

その他、立山黒部アルペンルートの途中に「松尾峠展望台」や「立山カルデラ展望台」と いった立山カルデラを一望出来る展望台がいくつか存在します。(地図D)

稗田山崩壊地

ひえだやまほうかいち/長野県北安曇郡小谷村(地図:P.28)



糸魚川静岡構造線に沿って流れる姫川は暴れ川として有名で、たびたび付近の 交通を寸断するなどの災害を引き起こしてきました。この、姫川の荒廃の原因の 一つとしてあげられるのが、稗田山崩壊地をはじめとするこの辺りの荒廃した地 形によるものだそうです。

稗田山は明治44年8月8日の深夜に北側斜面が突然崩壊し、大量の土砂を下流に押し出しました。その崩壊の規模は1億㎡ともいわれ、下流の深さが100m以上あるような渓谷をそっくり埋め立て、姫川本流に達した土砂が川を塞き止め天然ダムを作り、流域の集落に大きな被害を発生させました。

崩壊地の真ん中にある金谷橋から周りを見渡すと、至る所に赤茶けた色をしている崩壊した斜面が目に飛び込んできて、いま自分がこの場所に立っていられるこの場所がこうしてあることが、とてつもないことのように思える場所です。



本流の姫川との合流地点付近。変わった形の砂防ダムがあります。この付近は元々深い渓谷だったはずなのですが、崩壊土砂の堆積によりこのような状態になっています。



幸田文もこの地を訪れそれを記念した 文学碑が立っています。元々別の場所 に建立されたのですが、土砂災害によ り流出し、後に発見されこの場所に改 めて移設されたそうです。 (地図A)



金谷橋から下流の写真です。土砂流出 を食い止めるための砂防ダムや、土石 流を検知するためのセンサー(地図 B) などが見られます。



崩壊地の中央部にかかる金谷橋(地図 C)です。この橋を渡りきった先にあ る浦川本流も崩壊の激しい渓流です。

国道148号線を大町市から糸魚川方面に走行すると小谷村内でトンネルが現れます。そのトンネルを通り抜け出口の交差点を左折。左手に姫川第3ダムを見てそのまま道なりに進むと右手に浦川が流れ歳月茫々碑のある交差点へ到着します。交差点を直進すれば金谷橋へと続く道になります。

金谷橋までは道路が整備されていて普通の自動車でも十分走行できるでしょう。

大谷崩

おおやくずれ/静岡県静岡市葵区(地図:P.29)



大谷崩は静岡県を流れる安倍川の源流部にある大規模崩壊地です。その崩壊の 規模は1億2千万㎡に達するといわれており、鳶山崩れや稗田山崩壊地と並び日 本三大崩れの一つとして数え上げられています。

崩壊の発生の時期が明確には記録に残っていませんが、500年以上前には崩壊が始まっていたのではないかとされています。そして、1707年10月に発生した宝永地震により大規模な崩壊が発生、現在の姿になったといわれています。

この大谷崩を作家の幸田文がたまたま目にして大きな衝撃をうけたことで「崩れ」を著すきっかけとなった崩壊地でもあります。

砂防事業は明治34年より行われており、緑が回復しつつありますが、現在もまだ工事は続けられており、所によってはまだまだ荒々しい山並みを見る事ができます。



大谷崩の手前、安倍川本流にある赤水 大谷崩下流にの滝です(地図A)。崩壊によって発 B)です。こ生した堆積土砂により滝の水の色が赤 が大変美しく茶けた色に染まっていたことからこの になります。名がついたとされています。



大谷崩下流にある、大島床固工(地図 B)です。このあたり、秋口には紅葉 が大変美しく、非常に華やいだ雰囲気 になります。



大谷崩直下にある床固工です。土砂に 埋没し摩耗している構造物の姿に、崩 壊の激しさを感じます。(地図C)



大谷崩近くにある梅が島温泉(地図 D)は上流に日向山崩壊地を抱えて、 度々大きな土砂災害の被害を受けてき ました。そのため、災害を予防する対 策を見ることができます。

静岡市内から安倍川沿いを走る県道29号(梅ヶ島街道)を北上します。新田バス停の前の角を左折しあとは道なりに進めば大谷崩に到着します。

日光男体山

にっこうなんたいさん/栃木県日光市(地図:P.30)



世界遺産の社寺を望む日光男体山は富士山とおなじ成層火山と呼ばれる火山の一つです。山頂から放射状に「薙(なぎ)」とよばれる浸食谷が発達しつつあり、1683年に起きた地震により発生した大薙や明治時代にも被害が発生している観音薙など、主な谷には名前が付けられています。

現在では標高1300mを境に高い部分を林野庁、低い部分を国土交通省が受け持って砂防工事を行っています。

砂防工事を行っている大薙周辺の一帯は危険防止のため立ち入りが制限されていますが、いろは坂の途中にある駐車スペースや、第2いろは坂終点近くにある明智平ドライブインから工事の様子を眺めることができます。

また、日光二社一寺の横を流れる稲荷川の源流にも大鹿落としと呼ばれる崩壊地があり、下流に昭和初期に作られた砂防堰堤群が多数存在します。



いろは坂手前にある馬返駐車場(地図A)から大谷川におりると正面に大薙 などを望むことができます。



明智平ドライブイン(地図B)からも 砂防工事の現場を望むことができま す。治山工事事業者のPR看板や幸田 文の文学碑なども。



第1いるは坂の途中に駐車スペース (地図C)があり、そこから登録有形 文化財に指定されている方等上流砂防 堰堤を見ることができます。

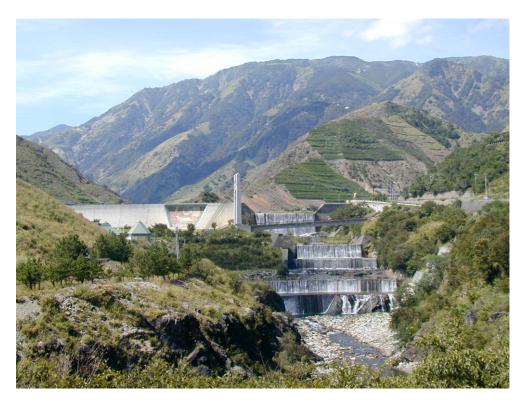


稲荷川の砂防堰堤群は遊歩道が整備されており、秋に行われる日光のウォーキングイベントではコースに指定されたりもしているようです。

国道120号線を日光市内から中禅寺湖方面に走行します。いろは坂から日光男体山がよく見えますが、いろは坂は全区間駐停車禁止なのでご注意を。

足尾 松木渓谷

あしお まつきけいこく/栃木県日光市足尾町(地図:P.33左上)



日本の近代化を支え、そして日本で最初の公害事件の舞台となった足尾銅山。製錬所の煙害と山火事によりすっかり禿山となってしまったため、異常な 土砂の流出により治水上の問題が発生しました。

そのため、砂防ダム等による土砂の流出を食い止める工事や植生を回復させるための植林事業が行われてきました。しかし、土壌を失った山々に植物を呼び戻すことは容易なことではなく、未だに荒々しい岩山があちこちに残されています。

近年では、地元NPO法人による体験学習を含んだ植林活動等が活発に行われており、また世界遺産の登録を目指した取り組みも行われているようです。



上流3川の合流部に作られた昭和29年に完成した堰堤高39m、計画貯砂量500万㎡の足尾砂防ダム(地図A)。周辺は公園として整備されており、資料館等もあります。



足尾砂防ダム右岸から上流堆砂原を望んだ風景です。大正2年から使用された松木堆積場(地図B)の一部が見えます。



足尾の山々に緑を戻すため、現在も官 民協力のもと植林活動が行われていま す。まず土壌を定着させる為にニセア カシア等が植えられるのだとか。



日光中禅寺湖東岸から伸びる無料化された旧中禅寺湖スカイライン(栃木県道250号線)の先に有る展望台から、松木渓谷の上部を見る事ができます。

国道120号線を日光市内から中禅寺湖方面に走行、「細尾」交差点を国道122号方面に進み、そのまま道なりに進みます。日足トンネルを抜けて信号のある交差点を右折すると足尾砂防堰堤が見えてきます。

足尾砂防堰堤から先は一般車両通行止なので、旧松木村方面等へ行かれる際は徒歩による 移動となります。



-----はくさん/石川県白山市(地図:P.31)



日本三霊山の一つとして知られる白山は荒廃している河川が多数あり、明治期から砂防工事が進められています。特に手取川上流部には国内で最も高所にある大規模地滑り地帯の甚之助谷や昭和9年に大崩壊を起こし現在も土石流が発生している別当谷など大規模な崩壊地が存在し、国土交通省の直轄事業として砂防工事が行われています。

これらの砂防工事の様子は白山の主要な登山道である砂防新道から見ることができます。また、県道白山公園線沿いには白山砂防の歴史などについて知ることができる白山砂防博物館や昭和9年の大洪水の時に手取川支流の宮谷から流れてきた百万貫の岩などを見ることができます。



昭和9年の洪水の時に運ばれてきた百万貫の岩です。高さが15mもあり近づいてみるとその大きさに恐怖を感じます。実際に平成7年の調査により129万貫(4839t)有る事が確認されました



湯谷川との合流地点直前にある市ノ瀬砂防堰堤(地図A)です。別当谷崩壊の時はこの辺りも土石流に飲まれて大きな被害が発生したそうです。



県道のつづら折りを抜けたところに手取川を見渡せるポイント(地図B)があります。この付近は夏場一般車両の通行規制があるので注意が必要かも。



砂防新道の中飯場(地図C)をすぎて少し行ったところにある別当覗き(地図D)という場所から昭和9年に崩壊した別当谷崩れを見ることができます。

金沢市内から国道360号線を白山市方面に走行、途中国道157号線に乗り換え手取川ダムを左手に見て白峰温泉で県道33号白山公園線道なりに進みます。

別当谷や柳谷の砂防施設を見学するには別当出合(地図E)から徒歩で登山する必要があります。別当覗きまで2時間ほどです。

大沢崩れ

おおさわくずれ/山梨県南都留郡鳴沢村・静岡県富士宮市(地図:P32上)



日本を代表する山、富士山。あまり目にされない西側斜面にある大きなえぐれが大沢崩れです。富士山には放射状に多くの浸食谷が存在し、その様子は「八百八沢」という言葉で評されるほどなのですが、頂上から麓まで達するような浸食谷は大沢崩れだけなのだそうです。

崩壊は千年ほど前から始まっていると推定され、今なお崩壊は進行しています。この谷底にたまった土砂によりたびたび下流に災害を引き起こすため、各種対策工事が行われています。

沢とはいうものの谷底を水が流れている訳ではなく、谷を見渡せる場所で耳を 澄ますと、ガラガラという岩石が転がる音が聞こえてきます。

大沢崩れへは「お中道」という登山道を経由して徒歩で向かいます。大沢崩れ内は危険防止の為立ち入り禁止となっています。



富士山有料道路の奥庭駐車場が最寄りの駐車場です。お中道の大沢崩れ方面の入り口(地図A)が少しわかりにくいので気をつけて。



大沢崩れまでの道すがら、いくつかの 沢を横切っていきます(地図B)。沢 といっても水は流れてませんが、落石 の恐れがあるので注意しましょう。



大沢崩れの手前には「お助け小屋」 (地図C)と呼ばれる今は無人の山小 屋が立っています。幸田文の「崩れ」 ではここに宿泊された時の光景が描か れています。



大谷崩れ近くの梅が島温泉から延びる 豊岡梅ヶ島林道の途中に、大沢崩れを 正面に望むことができる場所がありま す。

中央道河口湖インターより富士スバルラインに乗り換え、5合目まで登ります。お中道登山道を徒歩で2時間程度で大沢崩れ手前のお助け小屋に到着します。この前を通り過ぎたところに大沢崩れへ降りられる急斜面の道があります。

猿供養寺地すべり

さるくようじじすべり/新潟県上越市板倉区(地図:P.32下)









新潟県は国内でも有数の地すべり多発地帯で、昔から地すべりと向かい合って生活してきました。この旧板倉町にはそんな歴史を物語る「猿供養寺物語」と「人柱伝説」という二つの伝説が伝えられている興味深いスポットです。

地すべりを止めるために人柱なった僧侶の人骨が祀られている「人柱供養堂」。併設された「地すべり資料館」(地図A)ではこれら二つの伝説について詳しく解説がなされています。 1 階で販売されている 2 冊の本 『猿供養寺物語と人柱伝説』と『猿供養寺物語と乙(宝)寺』は アクセス:

二人の女子大生が活躍する推理小説仕立て の解説本で、きっと、これを読みながらエ リアの史跡を回りたくなりますよ。

その他、山寺薬師(地図C)付近では地すべり対策工事跡を見る事ができます。

北陸道上越インターを降り国道18号信濃町 方面へ進んだあと、輪島交差点を左折、野尻 交差点を右折、熊川交差点を左折する。右手 に「やすらぎ荘」(地図B)のある交差点を 左折すると左手に地すべり資料館がある。

「やすらぎ荘」では食事可能。

大西山崩壊地

おおにしやまほうかいち/長野県伊那郡大鹿村(地図:P.33右上)









昭和36年6月に「三六災害」と呼ばれる豪雨災害があり各地で大規模な土砂災害が起こり甚大な被害を発生させました。特に長野県南部の天竜川流域の伊那谷と呼ばれる地方は被害が酷く、そのとき発生した大規模崩壊がこの大西山崩壊地です。

大鹿村の中央をながれる小渋川を挟んで西側の斜面が崩壊したのは29日の午前9時10分、崩壊した土砂は川を渡って村の中心部に1000m/分という猛烈な勢いで襲いかかりました。その規模は風圧で家屋や自動車を吹き飛ばすほどであったそうです。

現在崩壊地は公園として整備(地図A)されています。また近くに「大鹿村中央構造線博物館」(地図B)があります。

アクセス:

中央道松川インターから県道59号松川インター線を大鹿村方面へ。

青崩崩壊地

あおくずれほうかいち/長野県飯田市(地図:P.33右下)









古くは秋葉街道、現在でも国道152号線の未開通区間である静岡と長野の県境の青崩峠。この長野県側にある崩壊地が青崩崩壊地(地図A)です。

秋葉街道が中央構造線をなぞるように整備されている事は有名ですが、青崩崩壊地のまさに中央を中央構造線が走っているそうで、付近の地質や地形は変化に富んだ非常に複雑な状態になっているそうです。

昭和36年より、対策工事がなされており、緑化の進んだ山肌や、山止工などを見る事ができます。また、迂回する兵越林道沿いでは、水窪川の渓流の砂防工事を見る事ができます。

アクセス:

中央道飯田山本ICを降り三遠南信道に乗る。天竜峡ICを降り国道151号線を豊橋塩尻方面に進む。早稲田交差点を右折、県道244号線に入る。天竜川沿いの県道1号線を右折し国道418号線との交差点を左折、国道152号線を右折し、行き止まり(地図B)が青崩崩壊地

帰雲山崩壊地

かえりくもやまほうかいち/岐阜県大野郡白川村(地図:P.33右下)









世界遺産として有名な白川郷の合掌造り集落から国道156号線を岐阜方面に少し行った場所、庄川を挟んだ対岸の山並みにこの帰雲山崩壊地(地図A)はあります。

崩壊したのは今から400年以上前の1586年1月18日に発生した白山付近を震源とした天正大地震によるものとされています。この崩壊によって、付近にあったとされる「帰雲城」と300戸あまりの民家を ▮ァクセス:

される「帰雲城」と300戸あまりの民家を埋没させたとされています。しかしあまりに山奥にあり、資料その他も一緒に埋没した今となっては正確なところはよく分かっていないのだとか。「帰雲城」には埋蔵金の伝説もあるそうで、そういった意味でも歴史ロマンに溢れる崩壊地です。

東海北陸道白川郷インターを降り、国道 156号を右折。そのまま道なりに進むと「帰 雲城埋没地」(地図B)の看板が出ているの でそこから庄川を挟んで対岸に崩壊地を見る 事ができる。

ちなみに本文でも触れたように帰雲城の所在 地は現在のところはっきりしていない。

崩壊地マップ

ここまで紹介してきました崩壊地とその周辺について、国土地理院の発行する2万5千分の1や5万分の1地形図を元に「崩壊地マップ」を作成しました。

崩壊地を訪れたとき、戸惑うのはその規模の大きさ。どこが崩れているのか、 自分がどこに居るのかが分からなくなってしまう事があります。そんなときある と便利なのが地形図。この地形図をご活用いたくことで、崩壊地を理解する手助 けができればと思います。

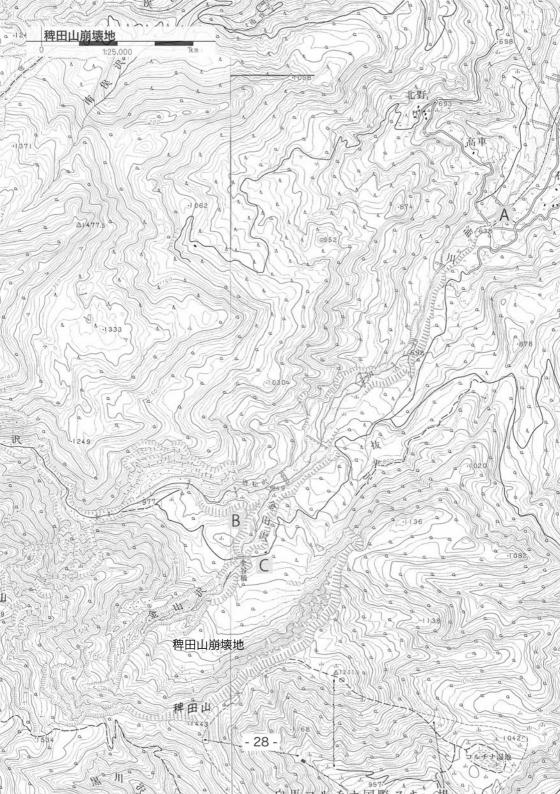
なお、使用した地形図のリストを掲載しましたので、自分でご購入される際の ご利用ください。

ページ	崩壊地名	地形図名(2万5千分の1)
27	鳶山崩れ(立山カルデラ)	立山(5万分の1)
28	稗田山崩壊地	白馬岳/雨中
29	大谷崩	梅ヶ島
30	日光男体山	男体山/日光北部/中禅寺湖/日光南部
31	白山	白山
32上	大沢崩れ	富士山
32下	猿供養寺地すべり	新井
33左上	足尾・松木渓谷	中禅寺湖
33右上	大西山崩壊地	信濃大河原
33左下	青崩崩壊地	伊那和田
33右下	帰雲山崩壊地	平瀬

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図及び2万5千分の1 地形図を 複製したものである。(承認番号 平24情複、第419号)

この地図の複製を行うにあたっては、国土地理院長の承認が必要です。

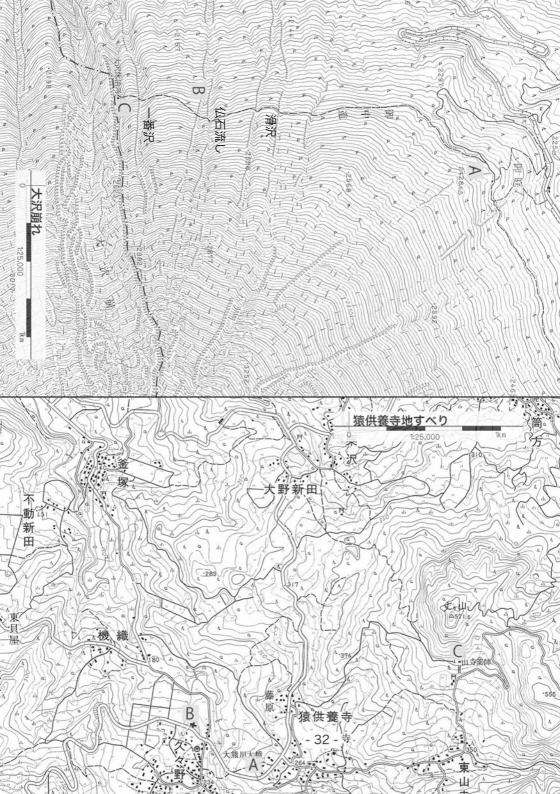


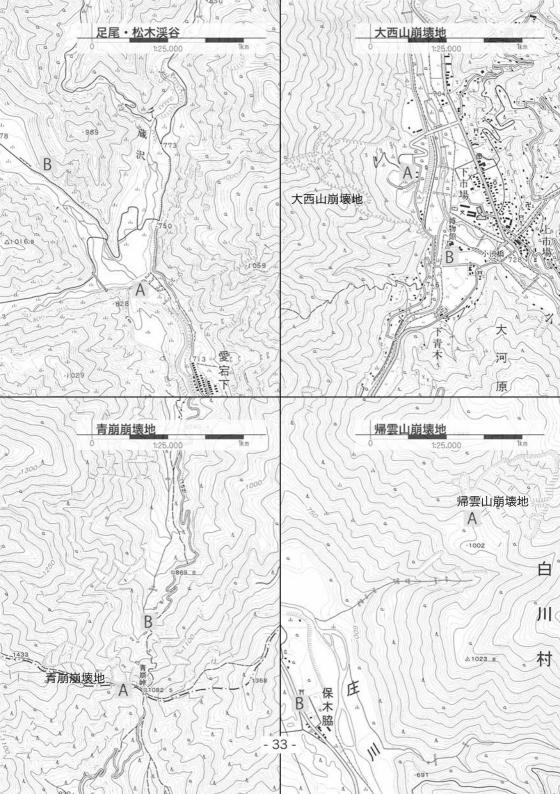












あとがき

ダムからの流れで砂防と崩壊地に手を付けてはや8年。ダムみたいに誰かきちんとまとめてくれる人が出てこないかなーと思って待っていたのですが誰も出ず。もう僕がやらないと駄目なんだろうかと思い立ってあまり深い考えも無いままコミケに応募し当選したのでこの本を作り始めたのですが、そもそも同人誌制作が初体験の僕には分からないことだらけでひたすら大変でした。

分量的には「崩壊地ブックレット」くらいのものになってしまいましたが、まあこれがいまの精一杯です。あと、あまり暗い感じにならないように心がけてみたのですが、今見返してみると逆にどうにも能天気すぎて怒られそうな気もします。難しいなぁ。

後日、この本のアフターケアという意味を含めた感じで崩壊地と 砂防についてのサイトを立ち上げようと思います。どうぞ、そちら もよろしくお願いします。

参考文献

砂防学会 編『新砂防』 大崩壊シリーズ (Vol.38 No.1~Vol41. No.6) 池谷浩 著『砂防入門』

東三郎 監修/高谷精二 編著『砂防学概論一土木教程選書』

幸田文 著『崩れ』

青木奈緒 著『動くとき、動くもの』

崩壊地ブック

2009年 8月16日 初版第 1 刷発行 2009年 9月18日 2 版第 1 刷発行

編著・発行:ダム日和 doboku@a.pekori.jp

印刷・製本:株式会社ポプルス

ダム日和 http://doboku.pekori.jp/

速報ダム日和 http://d.hatena.ne.ip/dambiyori/

DamMaps http://dammaps.jp/

ネット配布版あとがき

気がついたら崩壊地ブックを作ってから3年が経過していました。この間、喜ばしい事に思わぬ好評を頂きまして、調子に乗って4冊の同人誌が世に出ることとなりました。

すっかり、うっかり、足を踏み外した感じです。

そんなわけで、在庫が無くなりました崩壊地ブック1について、無料でネット配布ということになりました。本を作るのがそもそも初めてで、砂防やくずれというものもいまいちなんだか良く分からないという全方面手探りな状態でなんとか形にしてみたものが本書でした。本来でしたらあれこれきちんと手を加えたい所ですが、それを始めると完全に作り直すような事態になり収拾がつかなそうなため、必要最低限の修正となっております。申し訳ありません。

細かい情報はWebサイト「崩壊地ノート」でフォローしていこうと考えている訳ですが、こちらは完全に開店休業状態で、ああ、もうちょっとなんとかしないとなぁ。

あと、2週に1回ペースでニコニコ生放送を利用した砂防やダムを取り上げるネット番組「ダム日和テレビ」を配信しています。ご興味ありましたら是非ご覧下さい。

http://com.nicovideo.jp/community/co861

崩壊地ブック(ネット配布版)

2012年11月 1日 初版発行 編著・発行:ダム日和 doboku@a.pekori.jp

※.本書は崩壊地ブック 第2版の内容をネット配布用に編集 した物です。

ダム日和 http://doboku.pekori.jp/

崩壊地ノート http://kuzure.jp/

速報ダム日和 http://d.hatena.ne.jp/dambiyori/

DamMaps http://dammaps.jp/

